

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400228		
法人名	社会福祉法人実寿穂会		
事業所名	グループホームポート野芥		
所在地	福岡市早良区野芥8丁目7番1号		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果確定日	令和5年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡市南区井尻 4-2-1 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者様が、「今を生きる」を理念に、ご自分の存在についてどのように感じ、どのように生きようとして
いるかを、知りたいたいと思うことに努めます。さらにご本人の「やりたい・出来るかもしれない」、楽しみに
していることを、発揮していただけるように支援を行い、お一人お一人の「思い」や家族の「願い」を実現
するケアを実践します。
ご家族や地域の皆様にも支えていただきながら、あたたかで安心できる暮らしを創ることを目指していま
す。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ポート野芥」は平成27年に開設された。母体法人は長崎であり、福岡市内には特養・
サービス付き高齢者向け住宅など様々な介護事業所を展開している。当グループホームは閑静な住宅
街の一角にあり、中庭を中心に2ユニットがある。「今を生きる」の理念に基づき、これまでの生活歴、思
いなどを大切に「楽しみ・一人ひとりの役割を持ってもらう」など、ケアの実現に力を注いでいる。2ユ
ニット共同で事業所内にサークルを立ちあげ、コロナ禍のなかでも、状況を見ながら、楽しんでもらうよ
うにしている。家族・近隣地域のみな様にも支えてもらい、安心できる暮らしを創ることを事を目指して
いる。今後ますます地域福祉の拠点として、活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念である「今を生きる」を基本に、各ユニットごとに目標を設けている。施設理念は事務所の目の触れやすい場所に掲示しユニット会議などで唱和し、共有し実践している。	グループホームの管理者同士で話し合い、わかりやすい理念という事で2～3年前に作った。事務所の目の触れやすい場所に掲示してある。ユニット会議の時に唱和し、話し合い共有し実践につなげている。理念に基づいた個人目標を立て、半年に1回、面談を行い話し合う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、催しものには参加は行っていない。毎年行っていた、夏祭りや七夕などは、開催について自治会と子供会と相談を行っている。	コロナ禍の中、催し物への参加は行っていないが、毎年行っていた夏祭り・七夕祭りの開催については自治会・こども会とは相談している。公民館で行われた、認知症サポーター養成に、ホーム長が手伝いに入り実施していた。自治会長とは電話で話をしている。利用者と散歩の際に、近隣の方から入居相談などが6件あった。	公民館の運営サークルに事業所職員が携わっている。今後も自治会・公民館との関係は築いていくと、事業所全体の考えであり、事業所自体が地域の一員として交流されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日、入居者の方と散歩を行っている。近隣の方からの声掛けもある。入居相談など近隣から6件ありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を開き(コロナ禍のため状況報告書を郵送)、入居者の状況やサービス提供などの事業報告を行っている。 家族、地域の方の情報交換もできるようにしている。 地域包括支援センターからは、コロナが収束したら参加をしたいと連絡があっている。	平時は自治会長・公民館長・薬局・家族代表などに参加してもらっていた。コロナ禍の中、会議開催はせず、入居者状況・サービス提供・勉強会など事業所報告を郵送している。家族の訪問は多く、訪問時に意見、要望を聞くようにしている。平時の運営推進会議の参加者には電話で聞き取りを行い、意見、要望を伺っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加は無いため、運営推進会議議事録や広報誌を送付し現状把握してもらっている。 地域包括支援センターの主催により、民生委員とのアンケート調査などに参加している。	市への問い合わせはメールで行っていることが多い。介護保険の申請は郵送している。法人から広報誌が二か月に1回出しており、入居状況などは法人本部から定期的に行っている。コロナ感染の件で、保健所とのやり取りが多かった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の鍵を持ちたい入居者の方には、鍵を持って頂いている。居室内の吐き出し窓も、基本施錠は行っていない。	コロナ禍の中、出入りの管理のため玄関は電子施錠を行っている。入居者が希望する際は職員の見守りのもと一回りして戻る。利用者がなぜ出たいのか考えてみる。身体拘束廃止委員会を組織し、年2回及び入職時に、管理者が勉強会を行う。ドラッグロック・スピーチロックについても注意をしている。身体拘束高齢者虐待についてのアンケートを職員に1回行った。より身近な問題として今後も行う予定である。	

R4.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	計画作成担当者に、事故ならびにリスクマネジメント研修を行い。計画作成担当者による、OJTにより職員に伝えていっている。職員は外部研修に参加し、ユニット会議で伝達講習を行い虐待が見過ごせれないよう防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を申請され、後見人2人・保佐人1人利用されている入居者が居られる。施設からの提案で後見制度を利用されている。	成年後見制度を利用されている方がいる。説明や支援が必要な時には主にホーム長が担当し、パンフレットなどもその都度、渡している。ホーム長が、外部の任意後見人であり、制度については詳しい。職員も一般的な制度の理解はできている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項を説明し了承を得たうえで契約している。また制度改正がある場合などはその都度説明し同意書を得るようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価アンケートにて、家族の意見やご意見などを反映させている。日頃から家族の方には入居者の状況報告を密にし、ご意見や要望を伺うよう努めている	家族には担当者が個別の便りを写真つきで作成し、日頃の様子を月1回報告している。家族の訪問は多く、訪問時はガラスのドア越しで10分程度行ってもらい、コロナの状況により、入り口で家族に抗体検査を行ってもらい、いつもより少しゆっくりと行ってもらいもある。外部評価のアンケートにて利用者・家族などの意見を反映させている。以前にも行ったが、顧客満足度アンケートを近々行う予定である。	外部評価のアンケートは良い点・優れている点の意見が多くあった。より多くの意見、要望を収集するため、以前にも行った顧客満足度アンケートを行う予定との事。表面に上がりにくい意見、要望などの収集ができると期待している。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事担当者が定期的に施設に訪問し、職員とコミュニケーションをとりながら、意見交換や提案などを聞き取りしている。	意見交換、提案などを聞いてもらう機会は設けられている。ユニット会議で意見交換を行い話しやすい。年2回個人面談もあり、意見も上げやすい。日頃から相談はしやすく、内装のあしらいについて話をしたこともあり、反映に向けての取り組みもされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが年間目標を設定し、半年に1度面談を行い達成状況や勤務状況の確認を行い、働きやすい職場環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代から70代の職員が働いており、男女の区別なく雇用し、面接で介護への関わり方、考え方、向上心等を考慮して採用している。個人目標を立ててもらい目標に向けて働けるよう、アドバイスや研修への参加を促進している。	職員の年齢は30歳代から70歳代と幅が広い。男女比は半々に近い割合である。休憩室・休憩時間もある。調理師免許をもち料理が得意・パソコンの操作が得意・植物や畑の野菜、メロンなどを育てるなどそれぞれ得意な能力を発揮し生き生きと勤務している。研修の機会もあり又自己研鑽に励み、自己実現に向けて取り組んでいる。	

R4.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	WEBにて人権学習に参加、人権にかかわる虐待等について受講し、人権啓発活動のビデオを見て勉強している。 職員全員が視聴できるように、WEB研修を行っている。	管理者がWEBにて人権研修に参加し、内部研修を行う。人権にかかわる虐待などについて又人権啓発活動のビデオを見て勉強をしている。職員全員が視聴できるようにeラーニング学習研修を行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育スケジュールをもとに、職員の目標を設定し、個々の能力に応じ、互いに確認出来るようにチェック表を作成している。必要と思われる外部研修の受講や法人での研修を積極的に行い、向上を図っている。ベトナム人技能実習生の受け入れも行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設のポート賀茂の計画作成担当者に相互訪問などを行い、お互いに質の向上について相談を行っている。 グループホームのネットワークに参加し意見交換や交流の場となっている。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「本人の思い」を確認するために、「24時間暮らしの情報シート」をご家族に記入していただいている。施設に入居しても、今までの暮らしの継続が出来るように、入居前に訪問調査、情報収集を行いご本人の要望に対応できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、可能な方はご本人にも見学に来ていただき、事前に楽しみや要望を聞き取り、より一層「本人の思い」がサービスに繋がるよう取り組んでいる。契約前のオリエンテーションで、ご家族とのコミュニケーションを取り、関係作りに活かしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いを根拠にし、家族と施設がチームになり、入居者の未来が幸せな事を考え、今必要と思われるサービスを提案していった		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の暮らしの継続の中で、「今を生きる」という意識から、本人の役割を持ち、得意な事や楽しみを、教え合ったり励ましあったりしながら、生活を共にし信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランに家族の役割りを明記し、家族もケアに参加していただき、思い出に残るように働きかけている。ご家族の気持ちにも寄り添い、意向を把握しながら、ご本人を中心としたチームとしてより良い関係が築けるように心がけている。		

R4.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で実施できていないが、入居者の思いを叶えられるように夢実現として、馴染みの場所や、行ってみたいところへ訪問出来るようにしている。家族にも夢実現などの行事ごとに参加のお願いをしたり、遠方に外出する際、家族から同行依頼をお受けしている。	個別ケアで入居者それぞれの思いを「夢実現」に向けプランを作成し実践に努めている。家族にも「夢実現」の行事に参加のお願いをしたり、遠方の外出の際には家族から同行依頼を受けることもあった。コロナ禍の中、思うように実現はできていないが、友人が訪問し窓越しで会ってもらった。今後も状況を見て工夫しながら、入居者の思いを叶えられるよう、支援に努めていく。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話できるよう職員が介入 また、編み物や洗濯物たたみ等をできる方は、一緒に職員としながら支え合える環境作りをしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族へ連絡をして様子を聞くなどをしている。 看取りの方は49日などに訪問や、初盆には線香を送らせて頂いている。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、24時間暮らしの情報シートを使い、ご家族へアンケート調査を行っており、その情報をもとに今までの暮らしと変わりがないように生活を送ることができるように努めている。入居後も、今の生活に合わせて24時間シートを変更し本人本意のケアを行っている。	入居時には管理者が自宅を訪問することが多い。24時間暮らしの情報シートに家族に記入してもらう。嗜好調査で情報を収集する。今までの暮らしと変わりがないように生活を送ることができるように努めている。入居後も見直しを行い、本人本意のケアを行うようにしている。入居者の表情や言動にも注視し現状の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしを知り継続できるようにするために「24時間暮らしの情報シート」と「嗜好調査」で情報を収集し、自宅での生活と同じ時間の流れを、日々の暮らしの中に取り入れ生活を送れるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している。また、入居者の表情や言動に注視し現状の把握に努めるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	24時間シートから本人の「出来ること・出来るかもしれないこと」をカンファなどで話し合い、ケアプラン作成を行っている。 ユニット会議や申し送り等で出た意見を検討しそれをもとに、24時間シートに反映、更新を行い現状にあったケアができるようにしている。	カンファレンスで話し合い、計画作成担当者がケアプランを作成している。プラン目標には本人の思いや言葉が直接反映されるようにしている。本人の日頃の発言などを注意深く把握し、「夢実現」に事業所全体で取り組んでいる。担当者会議では本人・家族の意見、要望と共に、医療機関などからの情報もふまえて反映させている。日々の実施については、24時間シートと電子記録により把握でき、プランと紐づいている。	

R4.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、気づきがあれば申し送りノートに記入し、職員同士で話し合い情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調や状況に応じて食事の形態を変更している。好きな物を提供しており、その時に合った食べる楽しみの提供を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「夢実現」で、本人の思いを通じて、出前や近隣に出掛けたり、行事や公民館サークル活動に参加を行い楽しむ機会を支援しているが、コロナ禍のため、施設内サークルを立ち上げ、入居者の楽しみにつなげている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続でご家族と受診をされる方、ご家族の希望により提携の訪問診療、訪問歯科を契約、日常の様子や体調を提携のクリニックへ報告し連携を図っている。	かかりつけ医の継続又は提携医の訪問診療について、家族の希望を大切にしている。事業所の提携医がかかりつけ医となっている方が多い。訪問診療は月2回あり、医療機関は二か所ある。訪問歯科は週1回。他科受診は家族と一緒に職員が同行する。非常勤職員で看護師・作業療法士がいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の際には、職員が日々感じている入居者の状況を記載し、提携のクリニックの看護師や訪問看護師と手渡しやFAXで報告し、相談や助言をいただいている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行い医療機関と情報を共有している。入院中の本人の不安を少しでも軽減できるように、スタッフ、管理者がお見舞い行くようにしている。状況を見ながら、ドクター・ソーシャルワーカーと退院を含め今後の方向性について、話し合っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年は、1名の看取り介護を行った。契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明と提案をしている。今後の方針として、介護計画をご本人にとって最善な方法をご家族と一緒に考え、主治医と連携を密にとっていく。	今年は1名様の看取りを行った。契約時に看取りの説明は行い、重度化した場合には医師を交え再度話し合いを行う。提携医は看取りの対応をしており、24時間連絡体制が取られている。訪問看護との連携も主治医の指示のもと行われている。終末期には主治医が毎日訪問してくれる。終末期における状況について医師からの話も聞くことができ、チームで支援に取り組んでいる。	

R4.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、職員の目に付くところに張り出し、直ぐに対応できるように周知徹底をしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し総合防災訓練を日中、夜間想定で年2回行い、通報装置の取扱いや水消火器訓練を実施している。 災害時については、法人の管理栄養士の助言により備蓄品を備えている。	火災災害マニュアルを作成し総合防災訓練を日中、夜間想定で年2回行い、通報装置の取扱いや、消防署から水消火器を借り実施した。地震・水害の時の避難場所として自治会と相談し、小学校・集会所又は法人の特養としている。以前は管理者が地域の防災訓練に参加したことがある。	今後、自治会より防災訓練の案内が来たら地域の防災訓練に参加するとの事。コロナ禍の中、防災訓練の実施も困難かとも思われますが、案内が来たらぜひ参加されることを期待している。
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のユニット会議にて、ユニットチェックを行い、ご本人の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、言葉かけをしプライドを傷つけないように心がけている。プライバシーの確保に注意し、記録などの個人情報取り扱いの徹底に努めている。家族に日常の状況報告の際は、別室にて行うよう配慮している。	毎月のユニット会議にてユニットチェックを行っている。ご本人の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、言葉かけをし、プライドを傷つけないように心がけている。入居者の前で排泄の話をしたりすることがないように注意する。職員同士でもお互いに、注意、声かけをすることができるようにしてゆく。写真利用も含め、個人情報の取り扱いの徹底に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に対して職員が聴き、日常の会話からできることや、やりたいことを自己決定できるように支援を行っている。 出来るかもしれない探しをする中で、本人の生きる力を発揮できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートをもとに、入居者の暮らしの継続を守るために、「食べて・寝起きして・出す」を生活のペースにし、朝の起床・朝食など入居者の状態に合わせて声かけ、しっかり覚醒してから食事を提供している。一人ひとりのペースに合わせたケアを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際は、声かけにてご本人に選んでいただく、整容に関しては髭剃りや化粧などを支援し、身だしなみに気をつけ、その人らしさが保てるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、業者から納入している。入居者と職員と一緒に盛りつけや食器洗い、テーブル拭きなど一人ひとり出来ることを手伝っていただいている。食べたい物があるときは、外出支援として食事にかけたり、ご家族が持参されたりと食の楽しみを提供出来るよう心がけている。	業者から調理済みの食材の配達がある。食事レクとして、お料理の得意な入居者が「がめ煮」などを調理した。寿司、刺身などを家族が持参することもある。月1～2回は朝食をパン食にしたり、誕生日には利用者と一緒に、ケーキに飾りつけを行う。利用者がみそ汁をよそったり、食器を洗い、かたづけするなど、一人ひとりができることを手伝ってもらう。菜園に実っているトマト・ナス・キュウリなどを収穫し食事に添える。食事を一緒に楽しむことができる支援を行っている。	

R4.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、一日のトータルがわかるようにしている。病状等により水分制限のある方は職員間で情報を共有し支援をしている。補食は家族に協力を得ながら本人の好きな食べ物を準備し、習慣に応じた支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア体制支援加算を算定している。訪問歯科医による口腔ケア講習を全職員受講し、入居者一人ひとり毎食後ご自身で歯磨きを行った後、職員が口腔内を確認し磨き残しがないようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートをもとに、入居者の暮らしの継続を守るために、「食べて・寝起きて・出す」を生活のベースにし、入居者を定時に誘導するのではなく、本人の排泄パターンに合わせて声かけを行い、リハビリパンツからコットンパンツへ戻している。	全員分の排泄状況を管理できる表がある。24時間シートをもとに本人の排泄パターンに合わせ声かけを行ない、徐々に失禁が軽減した。日々の対応についてはその都度、気が付いたことは、職員が提案している。一人ひとりの力や排泄のパターン・習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・褥瘡予防委員から発信し、便秘改善のための運動、水分量の確保、便通を良くする腸活の工夫をしている。目標は、入居者の排泄の変化に適宜対応し、24時間シートに反映を行い、本人の安心につなげている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日程は決めてはいるが、入居者に伺い決定していただいている。夜間以外はお好きな時間に入っていただけよう支援している。毎回、お湯を入れ替え、湯温や時間は入居者の希望に添えるように、24時間シートに記載しケアの統一を行っている。	浴室は広く清潔である。週2回、10時～16時の間に入浴を行っている。本人の希望により好きな時にも入ってもらうように支援をしている。好みのシャンプーなどの利用もできる。季節の湯を楽しむ事もあり、訪問時は「ゆず湯」だった。皮膚の異常を発見した時は写真に撮り、主治医・看護師などと連携を取り対応する。入浴の時間は、とても良いコミュニケーション場となっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間シートを活用し、自宅と同じような環境作り、生活習慣の持続が出来るよう心がけている。日中の活動状況に合わせ休息できる時間を支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導の薬局と連携を取り、薬の一包化や錠剤が服用できない方は粉末にしていた。薬の効能や副作用の注意点、薬の変更など職員間で共有し確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの継続が出来るように、本人の意向好み・出来ることを支援している。本人の思いから「夢実現」につなげている。		

R4.12自己・外部評価表(ポート野芥)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から入居者の思いをくみ取り、夢実現という形で月に一度は買い物へ出かけたり食事やドライブに出かけている。 玄関のしつらえを行い、ベンチなどを設置している。	個別での対応をメインにしており、本人の気持ちにそいながら、毎日散歩に行っている。「夢実現」の一環として買い物・外食などを行っていたが、コロナ禍の中、今は好みのものを家族に購入してもらおう。今後は買い物なども再開しようと思う。ドライブでコスモス鑑賞・遺跡など車内から楽しんだ。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があればお金を所持することが出来る。、買い物や外食の際、所持金より精算していただけるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時の契約の際、ご家族との連絡の件を話し合い、入居者がご家族とお話がしたいときは、電話をかけることが出来るように支援している。 年賀状や残暑見舞いなど、ご家族に送られる入居者の方もおられる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	しつらえのコンセプトを煌ユニットが和モダン・雲ユニットが緑のある洋風とし、普通の家の玄関を作り込んでいる。食堂のテーブルの配置、リビングでくつろげる空間作りを行っている。季節の生花を売ったり、オルゴールや昔の名曲の音楽を流す際は音量に配慮している。	中庭とスタッフルームを中心に左右対称にユニットが配置されている。しつらえのコンセプトにもとづき、緑の多い洋風とモダンテイストの和風に分かれている。ホールの緑は、つややかな色を放ち元気で穏やかな空間を作り上げている。食事のテーブルの配置もリビングのくつろぎの空間を考えて置かれており、それぞれ好きな場所で時を過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットごとに、食事の場・くつろぎの場・記録の場とし環境作りを行っている。好きな場で気の合った入居者同士話が来たり、独りでくつろげるように椅子やソファを配置している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みのある物を持って来ていただき、できる限り自宅に近い環境となるよう、ご家族に協力していただいている。暮らしやすいように入居者、ご家族と相談し部屋の配置を考えている。 毎月、入居者らしいお部屋について、ユニット会議内で、しつらえの評価を行っている。	居室は十分な広さがあり掃除が行き届き、採光もよい。ベッドとクローゼットは備え付けられている。テレビ・テーブル・ソファなど使い慣れた馴染みのものを身の回りに置いている。好きな動物の写真を飾り、思わず笑顔がこぼれる。それぞれに思い思いの部屋作りを行い、安心して過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットごとに、食事の場・くつろぎの場・記録の場として環境作りを行っている。中庭をパブリックスペースとし入居者同士がくつろげる場所となっている。入居者が洗濯物を干したり、乾いたのを確認でき取り込めるように支援している。全面に手すりを設置しバリアフリーとなっている。		